

# 事例⑨ 海外取引先からの調達（EDI）での利用

## 【抱えていた課題】

日本の流通小売大手企業が、製品の製造を中国国内の複数の取引先へ委託しており、発注から納期管理・出荷状況の紹介までを日本国内にあるシステムで行っている。該当の製品は販売状況と連動して各製造元へ自動発注される仕組みであり、納期も細かく管理されている。

しかしながら、通信状態に影響され、発注データを確認する画面にアクセスできずに製造開始が遅れたり、リアルタイムに進捗状況や納期予定を更新しなければならないのに入力画面にアクセスできずに更新が遅れてしまうことが度々起こり、出荷遅れによる欠品発生のリスクを抱えていた。

常に安定的に発注システムへアクセスできないと販売機会の損失となるため改善が急務であったが、改善策が見つからずにいた。

## 【採用に至った経緯、ポイント】

- ・複数の取引先からの接続を・アクセス管理も簡単に行えるようになり、セキュリティレベルも強化できる仕組みであること。
- ・IX-NETのMiniルーターを各取引先に設置することで、各取引先から発注システムへの接続設定や運用開始後の対応の手間も軽減できる仕組みであること。
- ・事前検証の結果、確実にその効果を確認できた点。

## 【導入効果】

- ・発注システムへの安定したアクセスが実現し、売上の機会損失回避に繋がった。

## 【サービス名】

- ・IX-NET for EDI

